ひよくれんり２

もくじ

ひよくれんり２ 5

プロローグ　～奥様の秘密～ 6

花より団子よりやっぱり…… 11

黄金週間、懐かしのフルーツパフェと 34

ぎりぎりの境界線 45

甘い声音で、ささやいて 55

手巻き寿司パーティーの夜に 71

仁義なき水着バトル 84

今更 101

岩牡蠣（いわがき）と招かれざる客 126

教えて、君の言葉で 135

口移しで溶けさせて 189

エピローグ　～戸惑いを断ち切れ～ 240

番外編　奥様の弟 259

シスコン義弟の宣戦布告 260

シスコンと新婚さんとはっさく 271

ひよくれんり
2

プロローグ　～奥様の秘密～

夫婦って、お互いのことを全て理解し合っているのが当たり前だと思っていた。
これまでどんな人生を歩んできたのか、とか。
これからどんな人生を歩んでいきたいのか、とか。
何が好きで何が嫌いなのか、とか。
何が得意で何が不得意なのか、とか。
そんなことを一から十まで、全部知っているんだって。
幼い頃に、「大人になったら結婚する」ってことがごく当たり前だと思っていたのと同じように。
だけど実際に大人になって。結婚、してみて。
お互いを全部理解し合うのは簡単じゃないんだって、知った。

私、峰岸千鶴改め、柏木千鶴は去年の春にお見合いで出会った高校教師、柏木正宗さんと結婚しました。
出会ったのが五月。そこから交際をスタートし、プロポーズされたのが八月。実際に結婚したのは、十一月のこと。（挙式の日に婚姻届を提出しました）
このまま一生結婚もせず自分達に寄生して生きていくんじゃ……なんて、両親に心配されていた私が（失礼な！　薄給だったけど、働いてたし。一応家に生活費は入れていたよ）、まさかのスピード婚。周りもびっくりしていますが、本人が一番びっくりしていますよ……
旦那様の正宗さんは、私には本当にもったいないくらいのお方です。性格は優しくって穏やか、容姿は長身イケメン、かつ眼鏡男子！　（ここ重要）
私立高校の教師として忙しい日々を送っていらっしゃる正宗さんを、まだまだ家事に慣れないながらも、妻として支える日々が楽しくて、嬉しくて。……幸せ、で。
こんな風に、一人の男性をあ……愛する（恥ずかしい！）ようになるなんて、思ってもみなかった。
こんな風に、一人の男性にあ……愛される（恥ずかしい!!）日が来るなんて、思ってもみなかった。
だって、私は……だから。

出会いから結婚までが、短かった私達。
新婚生活は慣れないことや大変なことも多いけど、何気ない日常に幸せを感じる。
たとえば少しだけ肌寒い静かな夜に、二人で温かいお茶を飲んでいる時にはっと目が合って、言葉も無く微笑み合う、とか。
たとえば天気の良い日曜日に縁側に出て、まったりと日向ぼっこ、とか。
でもふとした拍子に、湧き起こる罪悪感。

私はこの素敵な旦那様に……いや、素敵過ぎるからこそ言えない秘密がある。
柏木千鶴、二十九歳。専業主婦。
身長は百五十二センチ。体重は……独身時代よりちょっと増えました。イヤアア!!
髪型はここ数年ずっと同じ。肩上くらい。色素が薄めなのは、母親譲り。
そして私……オタク、なんです。
漫画、ゲーム、アニメが大好き。というか大好物。
正宗さんは私がオタクだってこと、たぶん気付いてない……はず。
二人で暮らしている家（一戸建ての日本家屋。正宗さんが亡きお祖父様から譲り受けたもの）には、有難いことに寝室とは別に私の一人部屋がある。
そこに、実家から厳選して持ってきた漫画やら小説やらゲームソフトやらCDやらDVDやらを置いているけれど……
正宗さんは私のことを「漫画も含めた読書好きな人」で「ゲームもやる人」くらいにしか思っていないはず。正宗さんはそういうオタクコンテンツにあまり興味が無いし、私もできる限り隠しているし。
……だが問題はそれだけじゃない。ただのオタクなら、まだ良い。
私は、ですね。
あの、いわゆる……『腐女子』ってやつなんです。
年齢や既婚者という事実を考えたら、ひょっとすると『貴腐人』にランクアップしているのかもしれませんが、諸先輩方にはまだまだ及びません！　ということで、あえて『腐女子』と自称させていただきます。
つまり……ですね。
男性と男性の恋愛が、すなわちホモが大好きで!!
二次元はもとより、三次元でも男性が二人揃っていればついつい妄想しちゃうような、腐った脳みその持ち主なんだよおおおおおおおおおおおおおお!!
い、言えない！　こんなこと。
あろうことか、旦那様とそのご友人でも妄想しちゃってるなんて、もっと言えない!!
言ったら絶対ドン引かれるよおおおおお!!
最悪離婚ですよ、離婚!!
だって……普通に女の人が好きな男の人からすれば、男と男でうっへへ言ってる女とか、キモイでしょ!!
わかってる。わかってるんだよそんなこたぁ……
自分がどんだけ「アイタタターッ!!」なのかってことくらい！
だから私は、自分が腐女子であることを旦那様に隠している。
え？　じゃあ、腐女子やめればいいんじゃないのかって？
そんな簡単に卒業できるのなら、苦労しない!!
今や私にとって腐女子であるということは、アイデンティティそのものなんだ!!

だから私は、結婚する時……
腐女子であることはやめられないけれど、正宗さんとずっと一緒にいたいから……一生涯この秘密を隠し続けようと、貧相（ひんそう）な胸に誓ったのだ。

花より団子よりやっぱり……

正宗さんと結婚して、初めて迎えた春。
二人で見上げた家の庭の桜は、もう散ってしまったにもかかわらず……
「花見に行きませんか？」
と、正宗さんに誘われたのは金曜日の夜。
もう四月も末なのに？　と思って、私はつい「え？」と首を傾げてしまった。
「ちょっと遠出になりますが、遅咲きの桜の名所があるんです。日曜日、ドライブがてら、どうですか？」
ドライブ！　正宗さんとドライブなんて初めてだ!!
正宗さんは運転免許を持ってるけど、車は持っていないから。（かくいう私は、運転免許すら持っていない）
もし車を買うとしたら、子供が産まれてからですかね……って、二人で話したことはあるんだけどね。
やっぱりこう、子供ができたら色々なところに連れてってあげたいなあ、と。
実は、ワゴン車のＣＭとかで見る家族像に憧れていたりします。

おっと話が逸れた。
だから、今回はレンタカーを借りて行きましょうってことになった。
もちろん二つ返事で、「行きたいです！」って言いましたよ。
楽しみだなあ。正宗さんとドライブ。
それに、遅咲きの桜かぁ。桜はもう来年にならないと見れないなって思ってたから、またお花見できるのは嬉しい。

そして、土曜日に正宗さんがレンタカーを借りて帰って来た。
私は遠足前の小学生みたいに、明日楽しみだなあってわっくわくしてたら……
あ、あんまり眠れませんでしたっ！　子供か!!

睡眠時間が短かろうが、容赦なく朝はやって来る。
午前五時。スマホのアラームが鳴る。私は正宗さんを起こしてしまわないよう、素早い動作で枕元に手を伸ばし、アラームを止めた。
ううう……結局二、三時間くらいしか寝てないよう……
眠い……目がしぱしぱするう……
だがしかし、私はやらねばならんのだ!!
もそもそと起き上がり、服を着替えて顔を洗って歯磨きして、最後にエプロンを着ける。

そう！　これからお弁当を作るのです!!
……と言っても、凝ったものは作れないんだけどね。
「ええと……」
まずは、昨日の夜にセットしておいた炊飯ジャーを確認！
うん。炊けてる炊けてる。ジャーの中にはたっぷりの白いご飯。
今日はこのご飯に五目寿司の素を混ぜて、それを油揚げに詰めて、お稲荷さんにするのだ！
冷蔵庫から油揚げを取り出して、熱湯で油抜き。そして半分に切って、袋状にする。
次に小鍋に醤油、みりん、砂糖、水を入れて、油揚げを煮る。
うーん。あまじょっぱい、良いにおーい！　この匂いを嗅ぐと、思わずよだれが……
美味しくできるといいなあ。
おっと。油揚げを煮ている間に、他のおかずも作らないと！
私はもう一つのコンロに油の入った鍋を掛けた。
そして冷蔵庫から、たれに漬け込んでおいた鶏肉を取り出す。
それに唐揚げ用の粉をまぶして揚げれば、鶏の唐揚げの完成！
他にも、甘い卵焼き、魚肉ソーセージ入りのポテトサラダ、肉巻きアスパラを作って、お重に詰め込んでいく。彩りにプチトマトも入れてみた。
野菜が少ないかな？　と思って、茹でたブロッコリーも追加！　あとはおかずの下にサニーレタスを敷いて、オッケー！

うん。我ながら、彩り、量共に上出来じゃないの!!（あ、味も大丈夫なはず）
「ふうー」
二段のお重箱（一段目がぎっしり詰まった稲荷寿司。二段目がおかず）を完成させるのに一時間近くかかったけど、朝から一仕事やりきったぜ!!
あー、朝日が眩しい……。でも朝ごはんも作らなきゃ。
私はしぱしぱする目を擦って、朝食作りに取り掛かる。
ちなみにメニューは、車の中でも食べられるように、ロールサンドイッチと水筒に入れた熱々のコーヒー。これで準備はオッケイ!!

＊　＊　＊

職場で遅咲きの桜の話を聞いた瞬間、千鶴さんの顔が真っ先に浮かんだ。
家の庭に咲く桜を、縁側で見上げていた時、彼女は本当に嬉しそうな顔をしていた。
そんな千鶴さんの表情を思い出して、もう一度見せてやりたいと思ったのだ。
その日のうちに千鶴さんに話してレンタカーを手配し、日曜日に二人で行くことになった。
千鶴さんは俺より一時間も早く起きて、お弁当を作ってくれたらしい。大きな重箱の入ったバッグを誇らしげに掲げる彼女に、つい口元が緩む。昼が楽しみだ。
朝食を食べる時間も惜しんで、早々と出発。

しかし千鶴さんが気を利かせて、運転中でも食べられるロールサンドイッチを作ってくれていた。助手席で千鶴さんがラップを剥き、「はいどうぞ」と渡してくれるそれに、がぶりと齧り付く。具は定番の、タマゴとハム。赤信号で停車している間に、コップに注いだ温かいコーヒーも手渡してくれた。うん、美味い。
しばらく街中を走り、高速に入る前にコンビニへ。
ドライブのお供にと、菓子や飲み物を買い込んだ。
高速に入ってしばらくして、トイレ休憩のためにサービスエリアに寄る。
俺は知らなかったが、そこは最近テレビでもよく取り上げられている話題の場所らしい。千鶴さんいわく、近頃はサービスエリア目当てに高速にのる人も多いのだそうだ。
日曜日ということもあるだろうが、確かに賑わっていた。
「！」
千鶴さんの視線が、ソフトクリームの幟に向けられる。
何も言わないが、じいっと見ているということは……
食べたいんだよな……？
「千鶴さん、せっかくですから買って行きましょうか」
「えっ」
「美味しそうですよ？」
「じゃ、じゃあ……」

二つ（つまり俺の分も）買いましょうか？　と千鶴さん。
だが俺は別に……ということで、一つ買った。
店員からソフトクリームを受け取った千鶴さんは、ぱあっと目を輝かせる。
そして一口、ソフトクリームの先っぽを食(は)み、
「んん！　うまー！」
と、心底美味しそうに破顔した。
そんな表情を見ていると、俺も食べたくなるな。
「千鶴さん、一口くれませんか？」
「いいですよー！　って、ええっ⁉」
千鶴さんが手に持ったままのソフトクリームに、横からぱくりと口をつける。
……ん、意外に甘すぎなくて、美味いな。
「美味しいですね」
「はわわわわ」
顔を真っ赤にする彼女に、俺はついつい微笑んだ。

＊　＊　＊

サービスエリアでソフトクリームを横からぱくり！　された時は心臓が飛び出るかと思った……。

（だって顔！　近い‼）
そんなこんなでドキドキしちゃった休憩の後。
再び高速道路を走る私達。
それにしても……
「あと三十分くらいで、着きますよ」
「は、はいっ」
運転する正宗さん、ちょ……ちょうカッコいいんですけどおおおおお‼
ハンドルを握って、真剣な顔で前を見つめてるのがまた……‼
それに、サービスエリアで駐車する時、後ろを確認しながら片手でハンドルをくるくる回す姿がすっごく恰好良くて、思わず鼻を押さえちゃったよ私……‼　（鼻血対策）
正宗さんの新たな魅力を発見いたしました。
そんなこんなで、窓からの風景をぼーっと見たり、運転する正宗さんをじーっと見ているうちに
（ハ、ハアハアはしてないよ抑えてたよ、たぶん‼）、目的地へ到着しました。
そこは、私達の住む街から高速を使って片道二時間半のところにある高原。
牧場もあるらしいその高原の一角に、遅咲きの八重桜で有名な森林公園があるそうだ。
駐車場に車を停めて、お弁当の入った鞄を手に二人で歩く。
日曜日ということもあって、その高原にはたくさんの家族連れがいた。
ボール遊びをしている子供達や、遊具で遊んでいる子供達。そしてそれを見守る大人達。

あ、犬を連れている人もたくさんいる。フリスビーを見事なジャンプでキャッチした犬がいて、思わず拍手しちゃった。すごいなあ。しかも可愛い！

「んー！」

天気も良いし、今日は絶好のレジャー日和だよねえ。

高原の空気、気持ち良いー！

そして、目的の……

「わぁ……！」

八重桜!!

私は、今が盛りと咲き誇る八重桜の並木に感嘆の声を上げた。

すごい……！　本当に咲いてる!!

八重桜は他の桜より花びらが多い分、濃いピンク色に見える。

そのせいか、儚いというより力強い。力強くて華やかな美しさを感じる。

それが今、爽やかな風に悠々と揺れている。

なんて綺麗なの……!!

＊　＊　＊

「気に入ってくれましたか？」

「はい！」

高原に咲く、八重桜の並木。

どうやら気に入ってもらえたらしい。

ここへ連れてきて良かったと、桜を見上げる千鶴さんの顔を見て、思った。

確かに見事だ。

華やかで、力強い。

そう呟けば、隣で千鶴さんが「同じこと、思いました」と笑った。

以心伝心、ですね。

しばらく桜に見入りながら、ゆっくりと公園を歩く。

せっかく来たのだからと、牧場も覗いてみることにした。

広い敷地の柵の中には、放牧されている牛や羊がいて、小さな男の子が両親と一緒に、恐る恐るといった感じで羊に触れていた。

俺達も柵の近くまで寄って、羊を間近に見る。

まだ刈られていない毛をもこもこと纏った羊に、千鶴さんは……

「もこもこは可愛いけど……目が怖いです」

と言って、怖がる様子を見せた。てっきり、「可愛い！」と飛びつくかと思ったから、ちょっと意外だった。

目が怖い？　……言われてみれば、羊の目は瞳孔が横に広くて、それが少し怖いかもしれない。

「……ん？」
視界の端に、足元の牧草をむしって羊に与えている男の子の姿が見えた。
……面白そうだ。
俺も真似して、足元の牧草をむしる。
そうして羊に差し出すと、もしっと草に齧り付いてきた。
「おお！」
傍らの千鶴さんが歓声を上げる。そして彼女も同じように、牧草をむしって羊の前に差し出したのだが……
羊は千鶴さんの牧草には目もくれず、ぷいっとそっぽを向いて別の場所へ行ってしまった。
「なんで⁉」
「……フッ」
ついつい噴き出してしまった俺に、千鶴さんは「ひどいです、正宗さん！」と怒る。
ああ、すいません。でも、千鶴さん……
「ぷいって！」
あまりにも見事なフラレっぷり！
駄目だ。ツボに入った。
俺は必死に、笑いを堪える。
「あの羊めええええ……！」

たぶん、さっき「目が怖い」って言ってたの、羊にも聞こえていたんですよ。

＊　＊　＊

もー！　羊にはフラレるし（あの羊め！　正宗さんの手ずからの牧草の方が美味しい、お前なんかの牧草はいらねえよってことか！　くやしいいー！）、牧場のソフトクリームの方が美味しそうだったし。（あああサービスエリアじゃなくてこっちで食べれば良かった！　何せ目の前にいる牛さん達のミルクを使ってるんだよ？　新鮮だよ？　美味しいに決まってるよおおお！　でも一日二個は無理いいい！）
まあ、ちょっとモヤッともしたけど、牧場楽しかったー！
動物って見てるだけで癒されるよねー。羊の他にウサギにも触れたし。
そんな風に、ゆっくりと高原をまわってから時計を見たら、針はお昼を指していた。
また桜並木の公園に戻って、芝生の上にシートを敷く。
桜を見ながらのお弁当タイム！　です。
恐る恐る開けたお重箱を見て、正宗さんは「すごいですね」って言ってくれた。
い、いやいや量と見栄えは頑張ったんですけど、正宗さんのお口に合うか心配です。
私はドキドキしながら、持ってきた紙皿にお稲荷さんとおかずを取り分けて、正宗さんに手渡す。
「ど、どうぞ……。召し上がれ……っ」

「はい。いただきます」
ま、まずくないかな？　大丈夫……？
不安いっぱいの私の目の前で、正宗さんはぱくり、とお稲荷さんを口にする。
「……」
「……」
なっ、なんか言って……！
「美味しいです」
「っ!!」
本当に!?
正宗さんは次に唐揚げをぱくりと口にして、微笑んでくれる。
よ、良かった～。
わ、私も食べよう……。ん？
先に正宗さんに食べてもらってから自分も……って、今思うとまるで正宗さんに毒見させたみたいじゃないか!?　今日はいつもより暖かいし、作ってまだほんの数時間だけど傷んでた、なんてことがあったら大変！
ううう……。何か申し訳ない……と思いつつ、私もポテトサラダをぱくり。
う、うん。まずくはないな。でももうちょっと味濃い方が良かったかも……
お稲荷さんは美味しい。うん。私、普通の酢飯のヤツより具だくさんのお稲荷さんの方が好きな

んだよねえ。
それから鶏の唐揚げも、アスパラの肉巻きも食べてみる。すっごい美味しい！　……ってほどじゃないけど、普通に食べられるレベル。
あとはですね……この美味しい空気がスパイスってことで！　ひとつなんとか！
「……あ」
「えっ」
卵焼きを口にした正宗さんが、ふと声を上げた。
えっ？　どうしたんですか！　も、もしかして卵の殻入ってました!?
「……千鶴さん、お弁当付いてますよ」
「えっ!?」
正宗さんは、ふっと柔らかく微笑んだかと思うと……
「っ！」
その手を私の顔に伸ばしてきた。
（ふぎゃー!!）
そして口元についていたご飯粒をとってくれて。
ぱ、ぱくりとおおおおお!!　それを、おっ、お食べに!!
ひぎゃあああああああああああああああああああああああ!!
口元に付けてたご飯粒をとってもらって、ぱくんちょされるとか!!

はっ、恥ずかしいいいいいいいいいいいいいいいいいい!!
（うう……）
そんなこんなで、何だか色々どっきどきした昼食の後（正宗さんがいっぱい食べてくれたから、ちょっと作り過ぎたかな？　って思ったお弁当は綺麗に完食と相成りました！）、コンビニで買ってきたペットボトルのお茶とお団子でまったり。（花見といったら、やっぱり団子でしょ団子！）
ああ、風が気持ち良いなあ。
八重桜、綺麗だなあ。それに周りの木々の緑も綺麗。
もうすぐ五月。新緑の季節だねえ。
空は青くて、雲は白くて。
なんかそれだけで幸せだなあ……
「……んん」
あ……駄目だ……
昨日あんまり眠れなくて、今朝も早かったから、今頃睡魔……が。
お腹が良い感じに膨れて、日の光もぽかぽか暖かくて……
「……ふぁ」
私は、ぐっすりと寝入ってしまったのでした……

＊＊＊

千鶴さんが早起きして作ってくれたお弁当は、どれも美味しくて、ついつい食べ過ぎてしまった。
食後は、コンビニで買った緑茶と、「花見といったら、これですよやっぱり！」と千鶴さんがコンビニで買った団子でほっと一息。
確かにこの桜を眺めながら食べる団子は、オツですね。
「……ん？」
二人で言葉も無く、ただぼうっと桜に見入っていたら、ふいに肩に重みを感じた。
千鶴さん……？　と横を見れば、どうやら彼女は眠ってしまったらしい。
こんな場所で昼寝なんて最高だな。
それに彼女は今朝、早起きしてくれたんだし。
しかし、俺の肩にもたれかかっている体勢は不安定で、今にも倒れてしまいそうだ。
……なら。
「………」
俺は彼女を起こさないよう、そっとその体を横たえる。
小さな頭は、俺の膝の上に乗せる。
「………」
千鶴さんが起きなかったことに、ひと安心。

膝の上に感じる、わずかな重みが心地良い。
安心しきったような顔で眠る、俺の奥さん。
「……いつもご苦労さまです」
彼女の存在が、どれだけ俺を支えてくれているか。
胸に湧き上がる幸福感のままに、俺はそっと、千鶴さんの髪に触れた。
彼女の髪は細くて、ふわふわしていて、とても気持ち良かった。

＊　＊　＊

……なんだろう……。あったかくて、気持ち良い。
それに、良い匂いがする。
頭を撫でられているような、くすぐったい感触。
気持ち良い。
ずっと、こうしていたいな……
「……ん……」
私はゆっくりと、重い瞼を上げた。
「……ぁ……？」
目の前には、正宗さんの端整なお顔。

あ、あれ……？　な、なんで……？
寝起きでよくまわらない頭で状況を整理すると、わ、私……!!
まっ、正宗さんにひっ、膝枕されてるよおおおおおおおおおおおお!!
おっ、おまけに頭っ！
頭なでなでされてるとか、なんというヘブン!!
「……お目覚めですか？」
「すっ、すみませっ……!!」
慌てて起き上がろうとする私。だって、だってずっと膝枕とか辛くないですか!?
「気にしないで、ゆっくり休んでください。お弁当作るの、大変だったでしょう？」
正宗さんはやんわりと、でも有無を言わさぬ態度で私の頭を自分の膝の上へ押し戻す。
そして寝かしつけるようにポンポンと、頭を撫でてくれる。
いっ、いやあの、お弁当作るのが大変なのは、私の料理スキルが低いからで!!
おまけに寝不足なのも、楽しみで寝付けなかったというお前小学生か、ってツッコミたくなるような理由で!!
だからあのっ！　私よりむしろここまで長時間運転された正宗さんの方がお疲れで……っ!!
ここは本来なら私が!!　あつかましいかもしれませんが、私が膝を献上して正宗さんにお昼寝していただくべき場面ですよね、ごめんなさあああああいいいいい!!
「まっ、正宗さんは足、辛くないですか……？」

今、正宗さんはゆるく胡坐(あぐら)をかいていて、その膝に私の頭が乗っているわけなんですが……
ずっと同じ体勢って辛いよね!!
「大丈夫です。……時間はまだあるので、もうひと眠りしても大丈夫ですよ?」
いっ、いやいやいやいや!!
正宗さんの膝枕とかっ!!
ドッ、ドキドキしすぎてもう眠れませえええええええええええんん!!

うう……。まさか正宗さんのお隣でガチで寝入ってしまうとはぁ……!
一生の不覚!!
も、もちろんあの後は正宗さんのお膝の上でグースカ眠れるわけがなく、帰りの車の中でも、ちゃんと起きてましたよ私!!
長時間運転して下さってる正宗さんの隣でグースカとか!! できないですよ!!
ま、まあそれができたのも……あの時正宗さんのお膝で何も知らずに仮眠をとったおかげです。
ハイ。
あの時変な顔して無かったよね、寝言とか言ってないよね!?
はっ! よだれ!! よだれ垂(た)らしてたらどうしよう!?
「うううううう」
「……千鶴さん?」

思わず口に出して唸(うな)ってたよ、やばいやばい!!
「あっ、えっと。大丈夫です。あっ、正宗さんお菓子食べますか!?」
私は慌てて、膝の上に置いていたお菓子をすすめる。
コンビニで買っておいたスナック菓子だ。
「はい」
と言っても、正宗さんは運転中でハンドルから手が離せないので、私がお菓子を摘まんで……
まっ、正宗さんのお口に運びましたあああ!!
「んっ」
ひあああああああああああああ!! 指がっ、指が唇に!!
……正宗さんの唇、ちょっと薄くてセクシー……てぇ!! 何考えてんだ馬鹿野郎!!
「もう一つ、くれますか?」
「はっ、はひ……ッ」
そうして私は正宗さんのお口にお菓子を運んだり、ペットボトルの蓋を開けて手渡したり。
今日は楽しかったですねえ、とか、桜綺麗でしたねえ、とか言いながら、心臓ばっくばくドッキドキなドライブデートの時間を過ごしたのでした。

そして無事帰宅。
夕飯はサービスエリアで済ませて来た。最近のサービスエリアはレストランも充実してるよね。

美味しかった。そこにしか無いご当地グルメもあったりして、楽しかったなあ。
帰宅後、お風呂に入ってようやく人心地。
やっぱり長時間車に乗ってると体バキバキするなあ……
正宗さんも長時間の運転は大変だったようで、ちょっと疲れているご様子。
ここは一つ、マッサージでも……！
肩揉ミマショカー!!　腰揉ミマショカー!!　（何故カタコト！）
「……千鶴さん」
「はいっ！」
寝室のベッドの上に座っている正宗さんに呼ばれて、私は元気よく返事をして傍に寄る。
なんですか、マッサージご希望ですか!?　準備はできてますよ！
「……」
正宗さんは無言で、ぽすぽすと自分の隣を叩いている。
そこに座れってことですね！
「……えっ」
言われた通りにベッドに座った私の膝に、ぽすんとのしかかる重み。
こっ、こりは……っ！
膝枕!!
「……すみません。しばらく、このままで……」

正宗さんはそう言って、目を閉じる。
ひあああああああ!!
初!!　膝枕!!
今日は初めて膝枕してもらったりしたり、してあげたり……何ですか！　膝枕の日ですか!!
でも、あの。なんかその……
甘えてくれているようで、気を許してもらっているようで……
こそばゆいけど、嬉しいものですね、膝枕って。
私はドキドキしながら、正宗さんがしてくれたように頭を撫でる。
うわっ。髪、さらさら……っ。
同じシャンプー使ってるのに、どうしてこんなに違うんだろう。
綺麗な髪。指通りが良くって、気持ち良い……
「……ははっ」
「？」
正宗さんが小さく笑ったかと思うと、閉じていた目を開けて、私を見上げる。
どきん、と胸が脈打った。
「なんだか新鮮ですね。こうやって……」
そして寝巻である浴衣の袖から手が伸びて、ぴたりと私の頬に触れる。
「下から、千鶴さんを見るのは」

「〜っ!!　やっ、なんか恥ずかしいです……」
あんま見ないでええええええ!!
正宗さんのお顔は美しいですけれども!!　イケメンフェイスですけれども!!
下から仰ぎ見たら、私へちゃむくれじゃないですかねええ!?
「……もう少し……このままで……」
正宗さんは微笑を浮かべてそう言うと、すうっと寝入ってしまった。
やっぱり、疲れてるんですね。
久しぶりの運転でしたもんね。安全運転、お疲れさまでした。
「ありがとうございます。正宗さん」
私は正宗さんの眼鏡をすっと外して、小さく囁く。
綺麗な桜を見せてくれて。
ドライブに連れて行ってくれて。
本当に、ありがとうございます……！

私は夜中になって正宗さんが目を覚ますまで、膝枕を続けた。さらさらの髪が気持ち良くって、自分もうつらうつら舟を漕いでいたけれど。
正宗さんは起きぬけに「すみません！」って言ってくれたけれど。
たとえ足が痺れたって、私は……

正宗さんに膝枕してあげられることが、照れくさいけど嬉しくって。
幸せってやつとか、らぶってやつを感じるので、またやりたいなあとか、図々しくもまたやってもらいたいなあとか……
お、思うのです!!

黄金週間、懐かしのフルーツパフェと

五月の大型連休。世に言う、ゴールデンウィーク。

私立高校の教師である正宗さんも、カレンダー通りにお休みを貰えた。ちなみに正宗さんは運動部の顧問じゃないから、部活で休日に出勤することはないんだって。

家に持ち帰ってきた仕事もあるみたいだけど、それでもお休みはお休みだ。

どこかへ旅行へ行きましょうか、とも言ってくれたけど、毎年テレビで流れている高速道路の渋滞や満員御礼の新幹線の映像が頭をよぎって、首を横に振った。

せっかくだけど、正宗さんは日頃お仕事で忙しいんだし……

連休は家でのーんびりまーったりしましょう、ということになりました。

あ、でもウチの実家には行きましたよ。ウチの両親は娘ではなく、正宗さんの訪れを待ち望んでいたけどな……！　実の娘そっちのけで、もう正宗さんに構う構う。

父は囲碁の相手をしてもらってご満悦だし、母はここぞとばかりに気合を入れてごちそうを作って正宗さんを（娘夫婦をではない！　娘婿だけだ！）もてなした。

私がたまに実家に顔を出しても、「あんた一人なの？」とか、「早く帰りなさいよ」とか言うもんな！　娘より婿が可愛いんだもんな！（拗ねてないですよ別に）

嫌な顔一つせず父の囲碁に付き合い（家族は他に誰も碁が打てないから）、母の料理を「美味しいです」といっぱい食べてくれた正宗さん。

そんな娘婿に二人は、「本当にウチの娘には勿体ない……」と呟くのだ。

私が一番わかっとるわ!!

私には過ぎた旦那様だってことぐらいな!!

そして調子に乗った両親が正宗さんにどんどん日本酒やらビールやらをすすめたばっかりに、日帰りのはずが一泊していくことになってしまった……。もー！

そういえば、連休で帰省していた弟の雲雀は、何故かぶすっとしてたなあ……

うむむ……。久しぶりの帰省で俺が主役！　のはずだったところを（それまでは雲雀が帰省するたびに、母が雲雀の好物を作ってあげていた）、今回は正宗さんに持っていかれちゃったからかな……？　両親とも「正宗くん正宗くん」ってうるさいくらいだったもんな……。実の子はそっちのけで……

まあそんなこんなで実家に一泊し、お昼御飯をいただいてから、もう一泊していけばいいじゃないと言う両親の誘いを振り切って、私達は家に帰った。

今日はね、正宗さんと一緒に買い物に行くんだよー。楽しみ！

久しぶりに二人でショッピングできるってことで、私のテンションは上がっているのだ。

日頃、食料品とか日用品は一人で買いに行くことが多いからなー。

目的地は最近話題のアウトレットとか人気のショッピングモールとかじゃなくて、昔っからある近場のデパートだけど。
子供の頃、両親に手を引かれて、このデパートに行くのがすごく楽しみだった。
いつもより少しだけおめかしして、おもちゃを買ってもらって。
帰りにパーラーで食べたフルーツパフェ、美味しかったな～。

ゴールデンウィークということもあって、デパートはすごい混みようだった。
はぐれないようにって、繋がれた手に熱がこもる。
あうあああ！　やっぱりいつまでたっても慣れないよう……
汗！　汗が気になる！　べとべとしてやしないかと！
ううう、もっと冷房効かしてガンガンに！　と、節電ブームに反したことをつい思ってしまう。
世の女の子達は手汗対策、どうしてるんだろうか……
そんなことを考えつつも、私達は人の波を掻き分けながら、雑貨や服を見てまわった。
ファッション売り場はすっかり夏を先取りしていて、私達は正宗さんのお仕事用のワイシャツやネクタイ、それからサマースーツを買った。クールビズ、大事ですよね！
正宗さんに似合いそうなスーツを何着か試着してもらって、その度に私は「黒髪眼鏡にスーツ！」と心の中で叫びまくった。テンションは急上昇してしまって、ハアハアするのを必死に堪えました。
スーツ男子とかっ……大好物です!!　もうかっこよすぎです正宗さん……!!

高校教師っていうのも萌えますが、正宗さんのそのスーツ姿ならば会社員もいける！　それで職場の後輩（受）と夜のオフィスで……ってオイ!!　自重!!　妄想自重!!
そして正宗さんが私にも、って夏用のワンピースを買ってくれました！　うわわわわ！
それはマネキンが着ていた、シャーベットカラーの涼しげなワンピース。
可愛いなって目を留めたら、正宗さんが「千鶴さんに似合いそうですね」って言ってくれた。
いやいやいやいや！　って必死に手を振っていると、タイミングよく近付いてきた店員さんに「御試着いかがですか？」って言われて、あれよあれよという間に試着することに。
ああやっぱりこれ可愛いなって思いながら（モデルじゃなくてな！　服な！）、試着室のカーテンを開けると、その場で待っててくれた正宗さんにも「似合います」と太鼓判（たいこばん）を押していただいて、そして購入……ということになった。
あああなんか申し訳ない……！　こういうとき、やっぱりバイトとかパートとかして自分の小遣いくらいは自分で稼ごうかな……と思う。
それに、私も正宗さんにその……何かプレゼントしたい……と、思うし。
それには正宗さんが稼いだお金じゃなくて、やっぱり自分で手に入れたお金で……と思う。
……真剣に何か仕事を探してみようかな……。短期とか単発とか短時間とか。家事に影響しない範囲のもので。
「……千鶴さん？」
「ほあっ！　あ、すみません、ちょっとぼーっとしてました……」

求人誌を入手するところから、履歴書に何を書くかまで想像が膨らんでいました。
ついつい思考が……
「人が多くて、暑いくらいですからね。ちょっと休憩しましょうか」
そして私達は、デパートのレストラン街にあるパーラーに入ることにした。
ここ……！　昔来たまんまだ！　まだ残ってたんだなあ……
子供の頃、家族で来たパーラーがそのまま残っていた。
懐かしいなあと思いながら、席についてメニューを見る。
ここはやっぱり、懐かしのフルーツパフェでしょ！
あああああ！　でもでもこのミルクセーキも気になる……
あああ、こっちのホットケーキも美味しそう……
「うう～ん……」
「……何と何で、悩んでます？」
メニューをじっと見つめていたら、私の迷いを見透かしたかのように、正宗さんに声を掛けられた。
はっとして顔を上げると、正宗さんは……慈愛に満ちた表情で私を見ていた。
うううう恥ずかしい！　コイツいつも食べ物のことで迷ってるよ、どんだけ食い意地張ってんだよって思われてるよ絶対!!　すすすすみませええええんんん!!
「え……ええと、フルーツパフェと、ホットケーキと、ミルクセーキ、で迷ってます」
私はメニューの写真をひょいひょいと指差す。

ホットケーキ……。家でも焼けるけど、お店のやつのようには綺麗にふっくらしないんだよね……
でも懐かしのフルーツパフェも捨てがたいし、ミルクセーキも……飲みたい！
「それじゃあ、全部頼みましょうか」
「えっ!?」
「食べきれないなら、俺も手伝いますから」
ま、正宗さあああああん!!
嬉しい！　嬉しい……けど……っ。
ど、どんだけ私を甘やかすんですかあああああああ!!

フルーツパフェもホットケーキも、もちろんミルクセーキも。大変……っ、大変美味しゅうございましたっ!!
ガラスの器に綺麗に盛られた、季節のフルーツや生クリーム、バニラアイス。フルーツと生クリームを一緒に口の中に運べば、ほわりと甘くてほんのり酸っぱくて、とっても懐かしい味がする。
そして溶けたバニラアイスが浸みたコーンフレーク！　好き！
ホットケーキも焼き立ての生地にたっぷりのバターと蜂蜜がかかっていて、ほっぺたが落ちそうなくらい美味しかった！
合間合間に飲むミルクセーキは、つめたーく冷やされ、さっぱりとしていて美味しい。このお店のはちょっと甘さ控えめで、それがまた良い。甘い物を食べながらだから、なおさら。

正宗さんも、ブラックコーヒーをお供にパフェとホットケーキを食べるのを手伝ってくれた。
そして、ミルクセーキを一口飲んで、「意外に甘くないんですね。美味しいです」と言う。
正宗さんは、もっとこう……練乳みたいな味を想像していたらしい。思わず笑ってしまった。れ、練乳って……

甘味で疲れを癒した私達は、最後にデパ地下に寄っていくことにした。
デパ地下大好き！　下手したらめっちゃ買いまくってしまう。食い意地の張った私にとっては天国のような（財布にとっては地獄のような）場所だ。
だけど今はお腹が満たされているからね、そんなに散財はしない……はず！
……はず!!
……だったんだけど……
結局気になるお惣菜やらスイーツやらをあれこれ買い込んでしまい……
だって美味しそうなんだもん！　そして試食したらやっぱり美味しいんだもん！　それにそうしょっちゅう来れる場所でもないし。
買いすぎちゃったけど、今日の夕飯で全部食べきれるかな……？　っていうか、早く食べたいよ、この手羽先！
あ。それから、和菓子屋さんで柏餅を四つ買っちゃった。
やっぱりこの季節は柏餅だよねえ……

二人で両手にいっぱいの荷物を持って、家に帰る。
駅から家までの道のりで、ぽつぽつと目に入るのは、あちこちの家で飾られた鯉のぼりが気持ち良さそうに空を泳ぐ姿。うーん、五月だねえ……
あ！　そういえば今日って、こどもの日だった！
この間、ご近所に住む小学生の宗憲君が、「千鶴ちゃん見て見て！」って手を引っ張って、お家に飾ってある兜飾りを見せてくれたっけな……
お祖父ちゃんが買ってくれたって、嬉しそうにしてたっけ。
可愛かったなあ……。兜飾りじゃなくて、得意気な宗憲君が。嬉しくってしょうがないんだろうな。
それにしても、最近はいろんな戦国武将のモデルのものが兜飾りになっていて、戦国武将好きな私にとってはキャッホイですよ。なんか無駄に滾る。独身の頃は、兜飾りが出回る時期に、買い物ついでに用も無いのに、デパートの催事場に見に行ってましたよ。そして、友達と戦国武将のカップリングで熱いトークを繰り広げたもんだ。
ちなみに宗憲君の兜飾りは、徳川家康のものを再現した逸品だった。
（……もし）
もし、私達の間に男の子……が産まれたとしたら……
そしてもし、兜飾りを買うことになったら……
その時にはぜひ！　伊達政宗の兜飾りにしようと、今からほくそ笑む私。
「千鶴さん？」

「ほえっ⁉　あ、す、すみませんぼうっとして……。鯉のぼり、見てました……」
危ない危ない！
ちょっと思考がトリップしてた！
男の子だったら……なんて。気が早いだろ自分！
「ああ……」
「五月の風物詩ですよね。鯉のぼりに兜飾り。……そういえば子供の頃、鯉のぼりが欲しくって欲しくって、親にねだったことがあったんです」
雛祭りに祝ってもらってるくせに、五月に入ると今度は近所の男の子の鯉のぼりが羨ましくなって（ちなみに弟の雲雀は五月人形は金太郎さんを買ってもらっていた）、よく親に「私も鯉のぼりほしい！」と駄々をこねてたっけ。
あれだ。ないものねだり、ってやつ。
「……そのたびに、『これで我慢しろ』って、小さいおもちゃの鯉のぼりを与えられてました」
スーパーで売ってるような、風車がついてるやつ。
ぶすくれながら、ふーふー風車に息を吹きかけて回してたっけ。
「……ははっ」
「あ、笑いましたね！」
「いや、可愛いなあと、思って……」
「んうぇ⁉」

か、可愛いいいいい⁉
い、いやいやいやいや！　だだこねて、拗ねてぶすくれてるただのガキの話ですよ⁉　今思うとわがままだったなーって思いますよ。鯉のぼりとか実際に貰っても困るでしょ！　って。
「……もし、俺達の間に男の子が産まれたら……鯉のぼり、買いましょうか」
「……っ」
さ、さっきの私と同じこと、考えてる……。男の子が産まれたら、って。
正宗さんは、鯉のぼりを見上げている。そして、「庭にもまだ余裕がありますし」と呟く。
確かにうちの庭なら、鯉のぼりも設置できますね。
鯉のぼり……か。
そ、それも大変魅力的なご提案なのですが……っ。
「か、兜飾りが良いと思います……っ！」
伊達政宗公モデルの兜が‼
一番好きなんだ伊達モデルの兜が‼
それに鯉のぼりより、飾るのも楽ですし‼
きっとジジババ（ウチの両親）が、嬉々として買ってくれるんだろうな。
「はい。……毎年、祝ってあげましょうね」
「ふぁ、ふぁい……」
男の子なら、兜飾りを飾って柏餅を食べて、女の子なら、雛祭りの日に雛人形を見ながら雛あら

れを食べよう。
家族みんなで子供の健やかな成長を願う。
そんな日が来るのは、そう遠くない未来だと良いな……なんて、春の空に思った、五月のお話。

ぎりぎりの境界線

たまーに。
たまーに、ではあるが。
夜、正宗さんのお背中を流すことがある。い、一緒にお風呂……とかはまだ！　まだ恥ずかしくてできないけど……
って‼　こ、これじゃまるでいつかは一緒に……って思ってるみたいじゃないか‼
と、とにかくだねっ。
日頃の感謝の気持ちを込めて、旦那様のお背中をごしごしするのですよ。

雨の日が多くなってきた、六月のある夜。
夕飯の後片付けを終えた私は、そろそろかな……とエプロンを外してお風呂場に向かった。
正宗さん、今日はちょっとお疲れのようだったから、久しぶりにお背中お流ししますよ！　そしてお風呂上がりに肩をお揉みしますよ！　って決めていたのだ。
これも、つ、妻の務めです。（なんか照れる……）
「正宗さん、入っても大丈夫ですかー？」

「はい」
了承の返事をいただいて、私は脱衣所で服の袖と裾を捲って浴室に入る。
あ、ちなみに裸もしくはタオル一枚のセクスィースタイルでお背中を流すなんて度胸は無いです。
そんなの無理だからー!!
「失礼しまーす」
と浴室の扉を開ければ、正宗さんがバスチェアーに座って体を洗っているところだった。
おお。ナイスタイミング自分！
正宗さんが自分のお膝にタオルを掛けてくれているのは、私に対する配慮……かな。
その……、まだ明るい所で正宗さんのアレを直視する勇気は無いのです！　ありがとうございます!!
「正宗さん、お背中お流ししますね」
「お願いします」
正宗さんからボディタオルを受け取って、それにさらにボディソープをぶちゅーっと掛け足して(泡々の方が好きなんです)、お背中をごしごしする。
今使っているボディソープは、ほんのりと薔薇の香り。
正宗さんの体から薔薇の香りが……や、やばい!!　なんかちょっとエロい!!
「お、お痒いところ、ないですかー？」
「……その、少し上の辺りを……」

「ここですか……？」
「はい」
なーんて言葉を交わしながら、さらにごしごし。
正宗さんの背中、おっきいなあ……
ああ、この骨ばった肉の薄い感じ……うっとりである。
でっへっへ。思わず、背骨の辺りをつつーっと指でなぞりたい衝動に駆られる。
そしたら、正宗さんはびくびくって体を震わせて、上気した頬と潤んだ瞳で「な、何を……」とかね！
攻めキャラに後ろから襲われる正宗さんも良いのう……
一見、受けには見えない正宗さんのようなタイプが受けに……っていうのも、良いよねえ!!
そのままシャワー流しっぱなしのお風呂で……っとぉ、いかんいかん!!　エロ妄想はいかん!!
それにあんまり体を洗うのに時間をかけると、冷えちゃうからね。
「それじゃあ、お湯かけますよー」
私は中腰の状態から立ち上がって、シャワーヘッドを掴んだ。
あとはお背中の泡々を、お湯で流せば終了～である。
その時、私の服にもちょっとお湯がかかっちゃうんだけど、正宗さんがお風呂から上がった後、私もすぐに入るから平気。
「よ……ッと」

蛇口をひねって、お湯を出す。
まずは自分の手に当てて温度を確認してから、正宗さんの肩から背中にかけて、お湯をかける。
あとはお湯が出た状態のままのシャワーヘッドを正宗さんに渡して退散。（前の方は自分でやってもらうのです）
……のはずだった、んだけど……
「……熱ッ⁉」
「うえっ」
えええええええええええ‼
急にお湯の温度が高くなったらしい。
私はびっくりして、思わずシャワーヘッドを離してしまい……
「ぶはっ‼」
思いっきり、顔面にお湯がかかりました。
幸いなことに、その時には元の温度に戻っていたので、熱くはありませんでしたが……
しかし、当然私の服はびっちょびちょです。
「千鶴さん⁉　熱くありませんでしたか⁉」
正宗さんが慌てて蛇口を閉めてくれる。
「は、はい……。もう熱くありません……」
大丈夫です……って‼　私のことなんかどうでもいいんですよ‼

「正宗さん火傷（やけど）‼　火傷してませんか⁉」
熱いお湯をかけてしまった正宗さんの肩。少し赤くなってる‼
あああああどうしよう‼　はっ、そうだすぐ冷やさなきゃああ‼
「少ししか、かかっていませんから大丈夫ですよ。それより、千鶴さん……」
「へっ？」
「……その、かなり濡れてしまいましたね」
濡れて……ああああああああ‼
そうだ！　私今ずぶ濡れ‼
ばっと自分の貧相（ひんそう）な胸元を見れば、濡れた服が肌に張り付いてブラジャーが透けてる！
色気もくそもないベージュのブラ‼
す、すみませええええんん‼
と、とりあえず正宗さんは大事ないようだし、退散するか。
「大丈夫です。どうせこの後お風呂に入りますし！　正宗さんは、どうぞごゆっくり……」
濡れた服は洗濯機に突っ込んで、バスタオルでも羽織ってお風呂が空くのを待とう。
そして退室しようとしたのですが……
「待って下さい。それでは風邪を引きます」
ばしっと、手を掴まれてですね。
「千鶴さんが嫌でなければ、一緒に入りませんか……？」

なんて、言われたら……
「嫌でなければ」なんて、言われたら……
断れないでしょぉおおおおおおおお!!
だって断ったら、正宗さんのことだから、ろくに温まりもせず早々に湯船から上がって、私に譲るもん、きっと！
（それに、「正宗さんと一緒にお風呂とか嫌です！」ってことになるじゃん、感じ悪いぃいい!!）
それは駄目！　絶対!!
まだまだ夜は冷えるんですから、ちゃんと体を温めないと正宗さんこそ風邪引いちゃいます。

と、いうわけで……
げ、現在私と正宗さんは……
同じ湯船に、向かい合わせに浸かっております……っ!!
うううう、恥ずかしい。緊張する。
せめてもの救いは、今日の入浴剤が白い濁り湯のヤツだったことだろうか。
じゃなかったら私、お行儀悪いと思われてもタオル巻いたまま浴槽に入ってたわ……。こんな明るい浴室で、まっぱで向かい合うとか無理だわ。
お互いの体が動くたびに、ちゃぷちゃぷっと波打つお湯。
世間には、毎晩一緒にお風呂に入るっていうラブラブ夫婦がいるらしいけど……

私には無理!!　今だって心臓ばっくばくで、逆上せそう……!!
ちなみにシャワー事件の後、私はもそもそと脱衣所で濡れた服を脱いで、おずおずと浴室に入りました。（体にタオルを巻いてな！）
そして体と髪を洗っている間、申し訳ないですけどって断って、正宗さんには壁の方を向いててもらうことにしました。
だ、だって見、見られながら体洗うとか、無理だよおお!!
私が使っている間も諸悪の根源のシャワーは、お湯の温度がいきなり冷たくなったり熱くなったりしたから、これは明日にでも業者さんに見てもらわないとだめだな……
使い勝手の悪いシャワーに耐えながらも、いつもより心持ちささっと体と髪を洗って、恐る恐るそーっと、湯船に浸かった。
それから、正宗さんに「もういいですよ」って言って、現在こうして、向かい合っているわけです。
「……」
「……」
こ、これってやっぱり……あれですか。
一緒にお風呂に入っているからには、こう……
いちゃいちゃすべきですか、セオリー通りに！　（なんのセオリーだ！）
エロ漫画とかだとこう……、狭い浴槽に浸かっているうちにその気に……なって、相手の手が肌に触れてきて……

高鳴る胸を這う彼の手。
そしてその手あるいは指が、ゆっくりとソコに触れてきて……
『……ここ、濡れてますね。お湯じゃないモノで……』とか！
『触れられただけで、感じてしまったんですか？』とか！
『いけない人ですね……こんな所で何を考えているんです……？』とか!!
言葉責めされたりして!!
いっ、いやあああああ!!
でっ、でででもしそんな破廉恥展開になっても抵抗できそうにない自分が怖い!!
「……千鶴さん？」
「ふぁいっ!?」
名前を呼ばれて、俯けていた顔を上げる。
目の前には、微笑を浮かべた正宗さん。
うぐっ……
ま、正宗さん……っ。
濡れた洗い髪が頬に張り付いて、エ、エロい!!
あああああこのフェロモンはやばいわ!!　腰砕けるわ!!
今、ここで……
正宗さんに触れられたら……

もう、何も考えられなくなってしまう。
そんなぎりぎりの境界線がそこにあった。
「っ!?」
正宗さんの手がすっと伸びて、濡れた私の髪を撫でる。
（ま、ましゃむねさぁあああん……っ）
私……っ。私……
はっ、恥ずかしいけど、正宗さんが望むならこのままここでメイクラブ……っ！
「先に、上がりますね」
（エ……!?）
「は、はい……」
え？　な、何もしない……だと!?
まじで!?
ええええええええええっ!?
「ゆっくりどうぞ」
「は、はーい」
そして、フェロモンたっぷりの正宗さんは……
（あ、あれ……？）
お風呂でお約束のイヤンな展開を起こすこともなく……

普通に、先にお風呂から上がりました。
アッレー!?
わ、私!!　今、ものすごく恥ずかしいよおおおおおおおおおおおお!!
自分の妄想のあまりの破廉恥(はれんち)さに自己嫌悪して、湯船の中にぶくぶくと沈む。
エロ漫画の読み過ぎだ！　ばかっ!!

立ち読みサンプルはここまで

甘い声音で、ささやいて

「ふ……ふおおおおおお!!」
それは六月のある日のこと。
そろそろ衣替えをしようと思って、正宗さんのお部屋の押入れをごそごそと整理していたら……
お宝！　発見!!　しちゃいました!!
「こ……これは……っ」
思わず広げてしまう、黒の上下。
このシンプルなフォルム……。制服フェチにはたまらない……
学ランっ!!
正宗さん学ランだったんですか!!
ちょ!!　昔の写真見たいぃぃぃいいいいい!!
確かあの学校、今の制服はブレザーだったよな……（正宗さんは現在ご自分の母校にお勤めです）
ううう変わってしまったのですか、勿体(もったい)ない!!　最近、学ランがどんどん減ってきているようで私は悲しい！　悲しいよ!!
学ランには夢と浪漫(ロマン)が詰まってるのにいいいいいい!!